

新潟県立出雲崎高等学校 教職員研修

アセスの概要と分析・活用(前半)

本研修資料は公益財団法人学校教育開発研究所(AISES)による資料などを参考に本校で作成したものです。
つきましては、本研修資料に関するご意見やご質問等がありましたら、本校までお願いいたします。



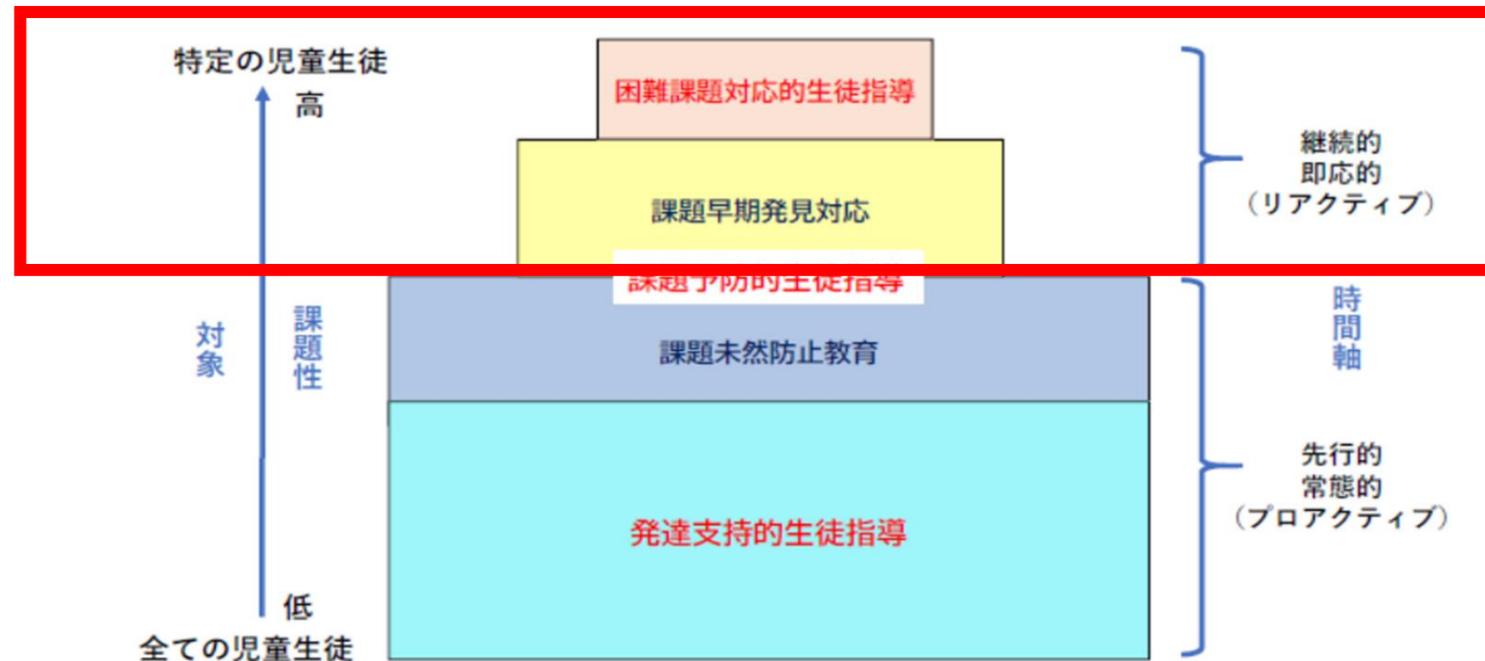
1. これからの生徒指導の取組

2. アセスメントの重要性
3. アセスの基本
4. アセス個人表の読み方
5. アセス学級分布表の読み方
6. 支援策の考え方と作り方
7. 事例検討（理解の確認）
8. おわりに

これからの生徒指導の取組について(1)

- かつての生徒指導は、問題が起き始めたことを認識したら、すぐに対応する(即応的)、また困難な問題には学校組織をあげて粘り強く取り組む(継続的)ということが中心的な取組であった。

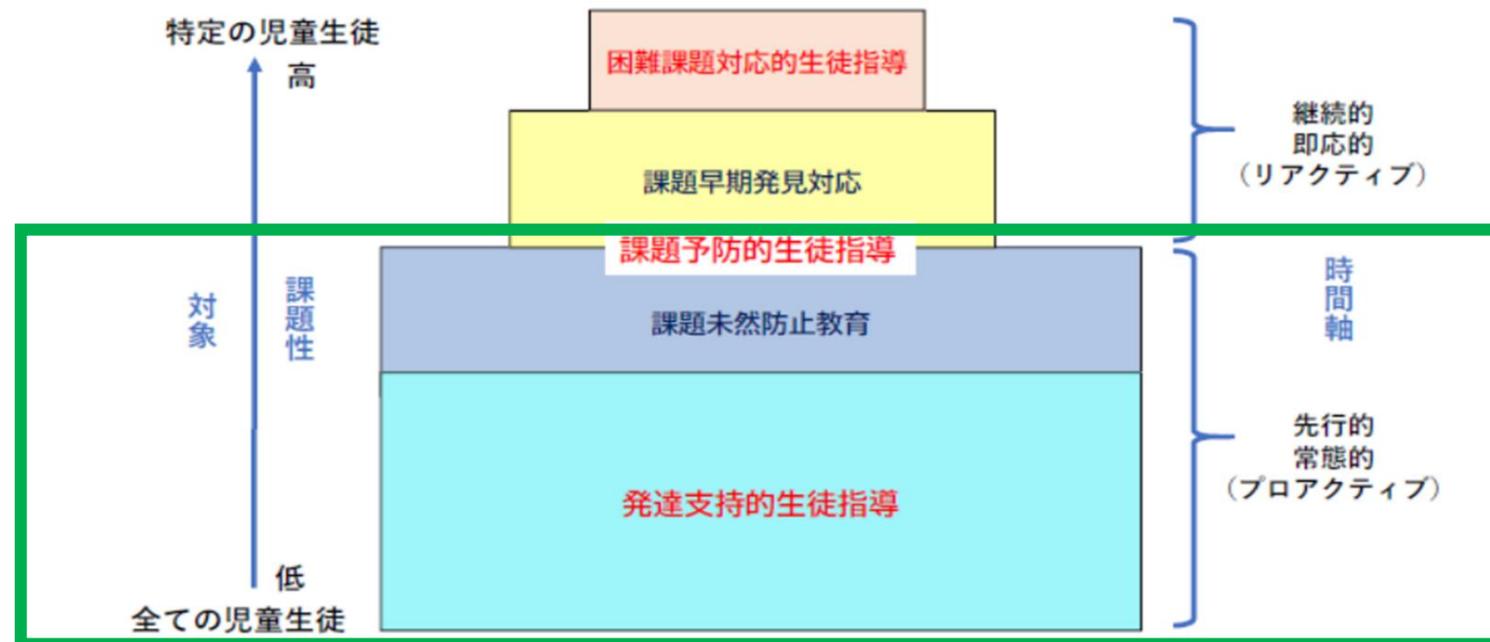
図1.2 生徒指導の重層的支援構造



これからの生徒指導の取組について(2)

- しかし、これからの生徒指導は「問題が起きたらどう対応するか」という視点の前に、「常日頃の教育で(常態的)、如何に生徒を成長させるか(先行的)」「問題を起こさせないか(先行的)」という視点が重要となる。

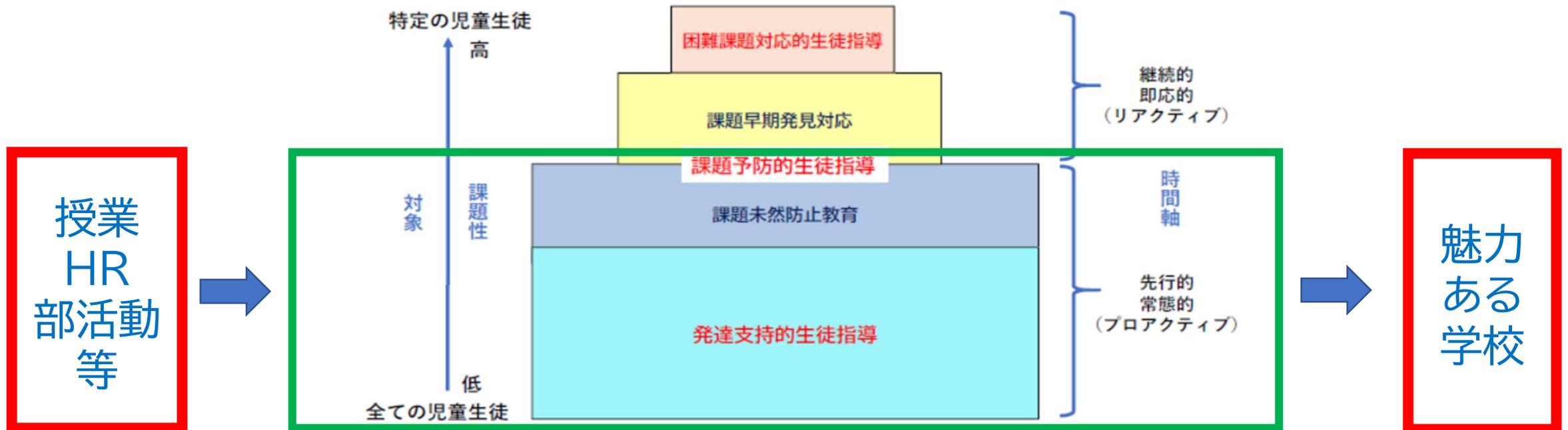
図1.2 生徒指導の重層的支援構造



これからの生徒指導の取組について(3)

- 換言すれば、教育課程を中心とした常態的・先行的(プロアクティブ)な教育活動を如何に魅力あるものとして創意・工夫するかが大切であり、それを諸問題の未然防止や再発防止につなげることが求められている。

図1.2 生徒指導の重層的支援構造



生徒指導の取組の変容

かつて

これから

事後的対応



予測に基づく計画的対応

問題点を正す解決



夢・希望に向けた能力開発

説諭により叱る, 締める



対話から教え, 諭し, 気づかせる

個別対応



プログラム対応

担任中心



チーム学校 (組織連携)

教師・指導者中心



仲間の支えあいの活用

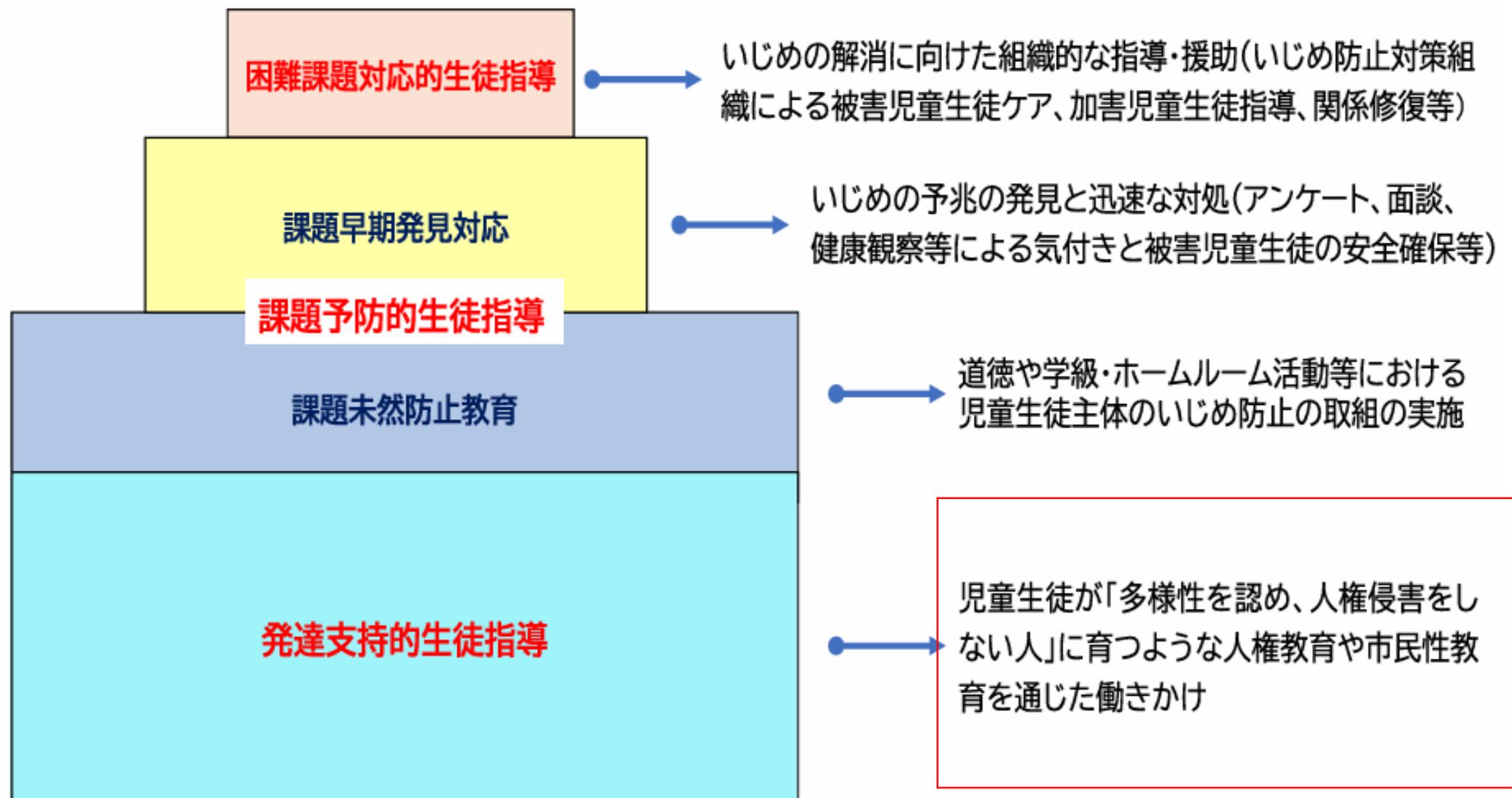
川下で溺れてくる子どもを救う



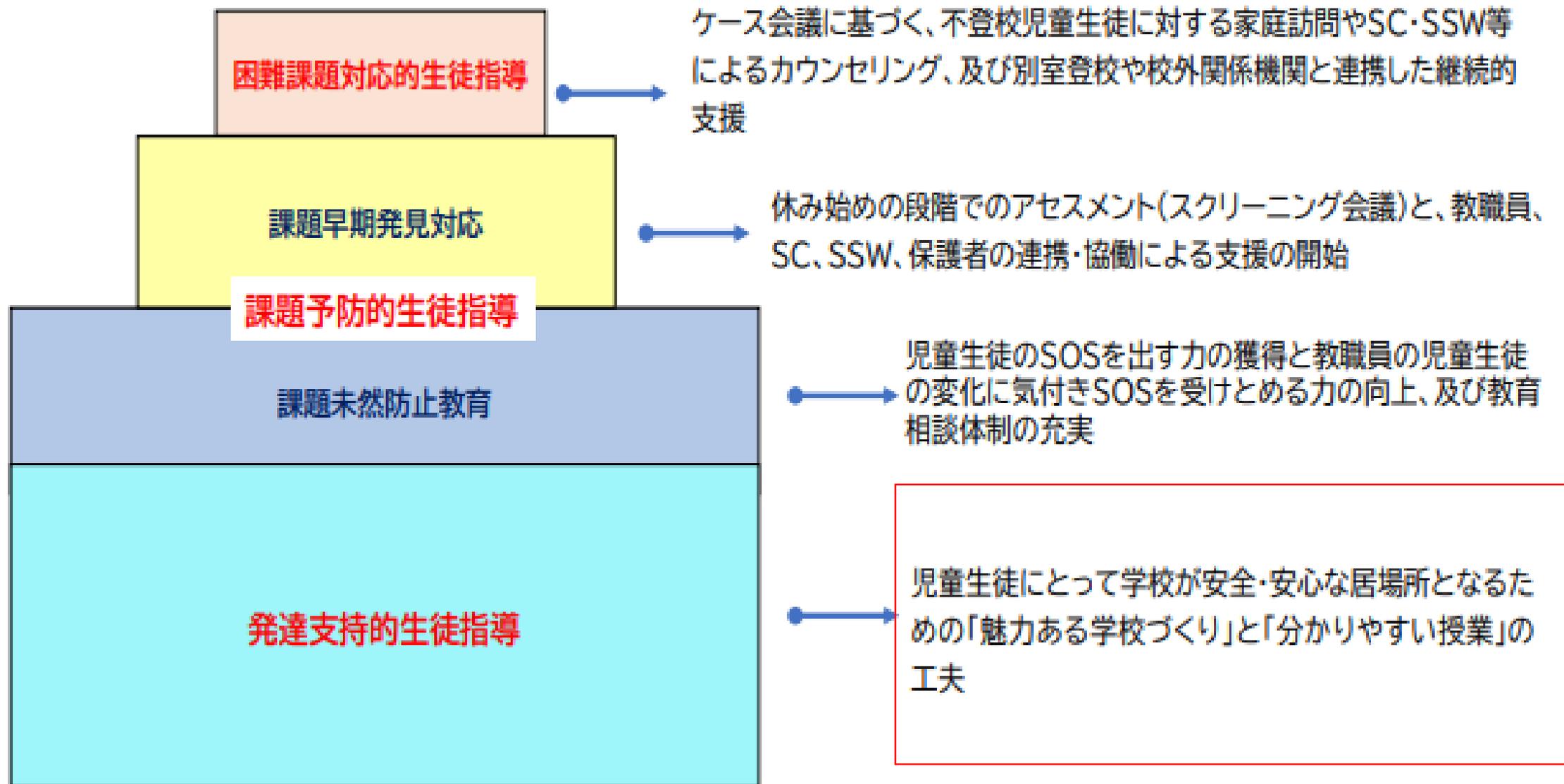
上流で泳ぎ方を計画的に教える

生徒指導と教育相談の実質的統合の必然性

〔具体例①〕 いじめ対策における重層的支援構造

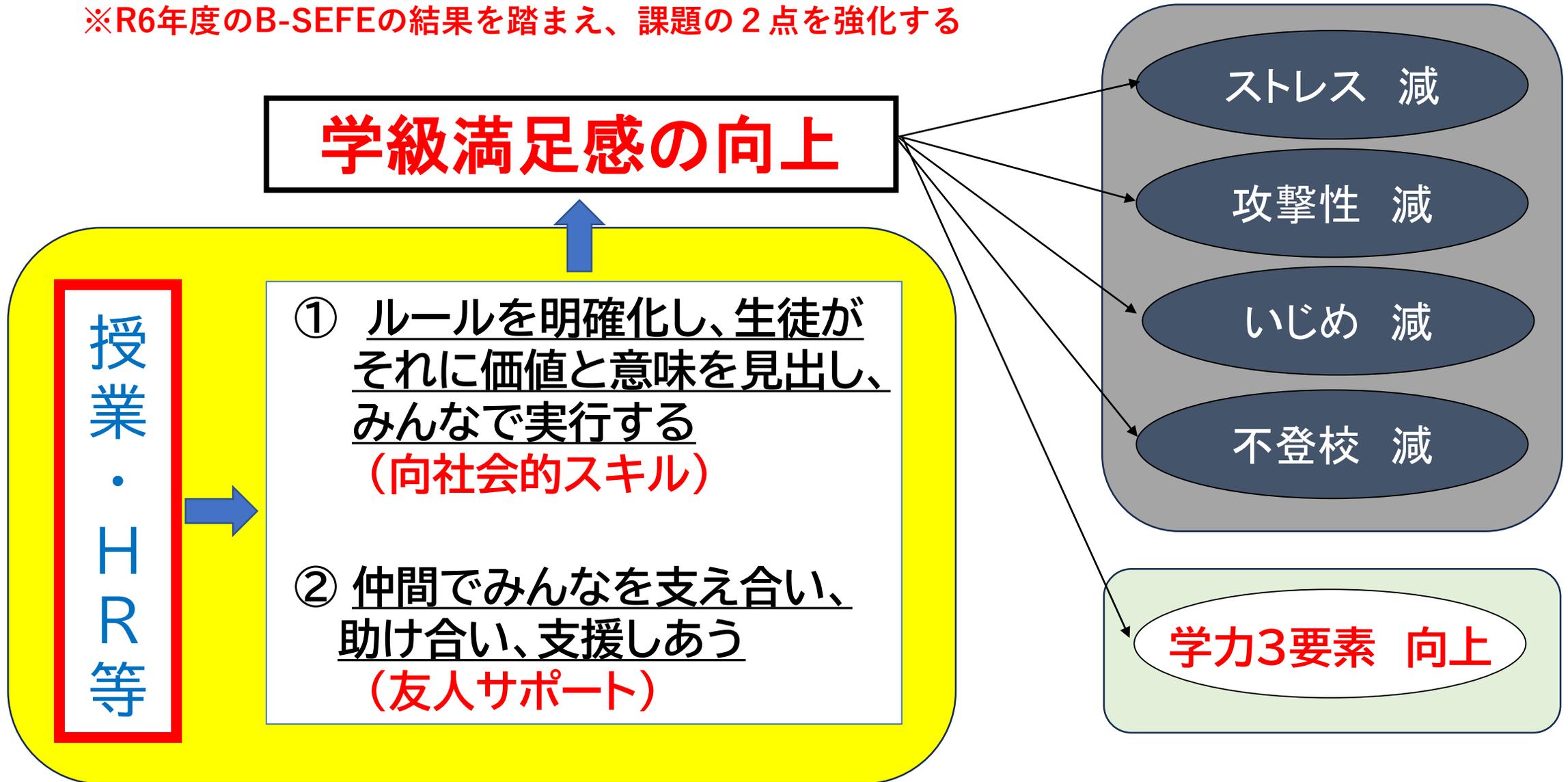


〔具体例②〕 不登校対策における重層的支援構造



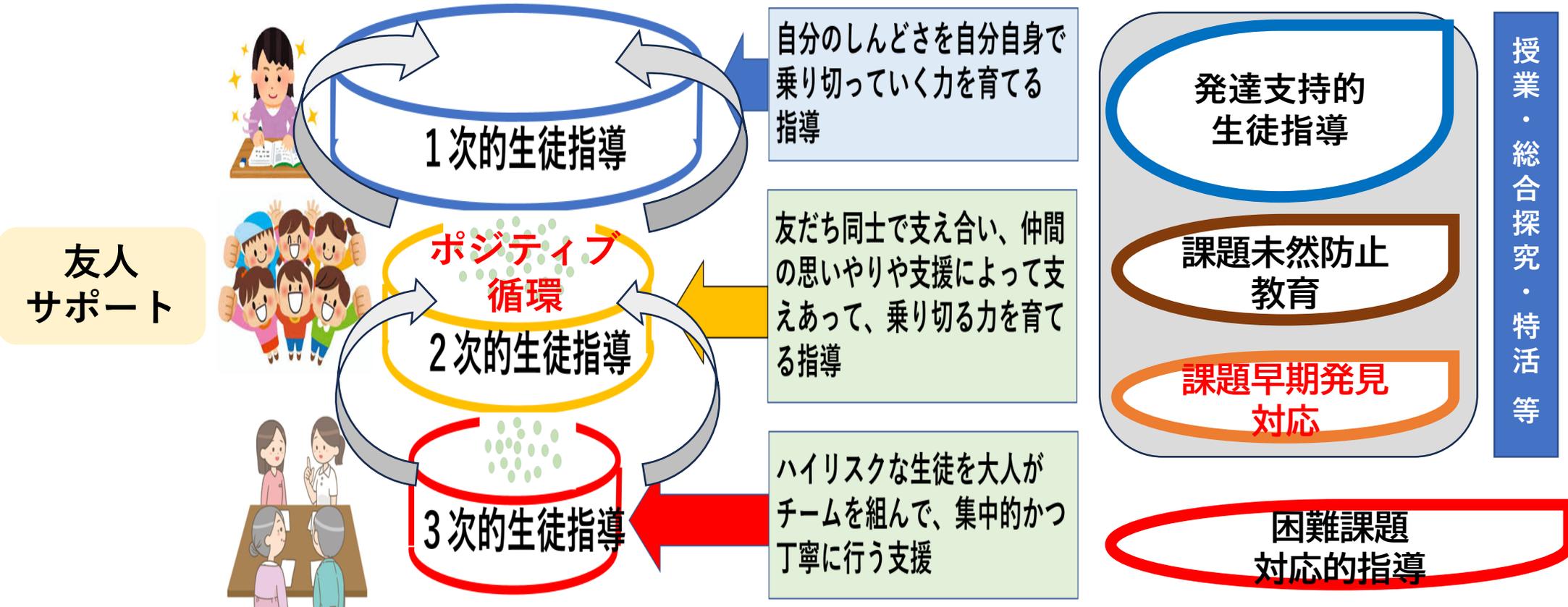
授業・HR・部活動等での教師の取組が「生徒指導」の基盤

※R6年度のB-SEFEの結果を踏まえ、課題の2点を強化する



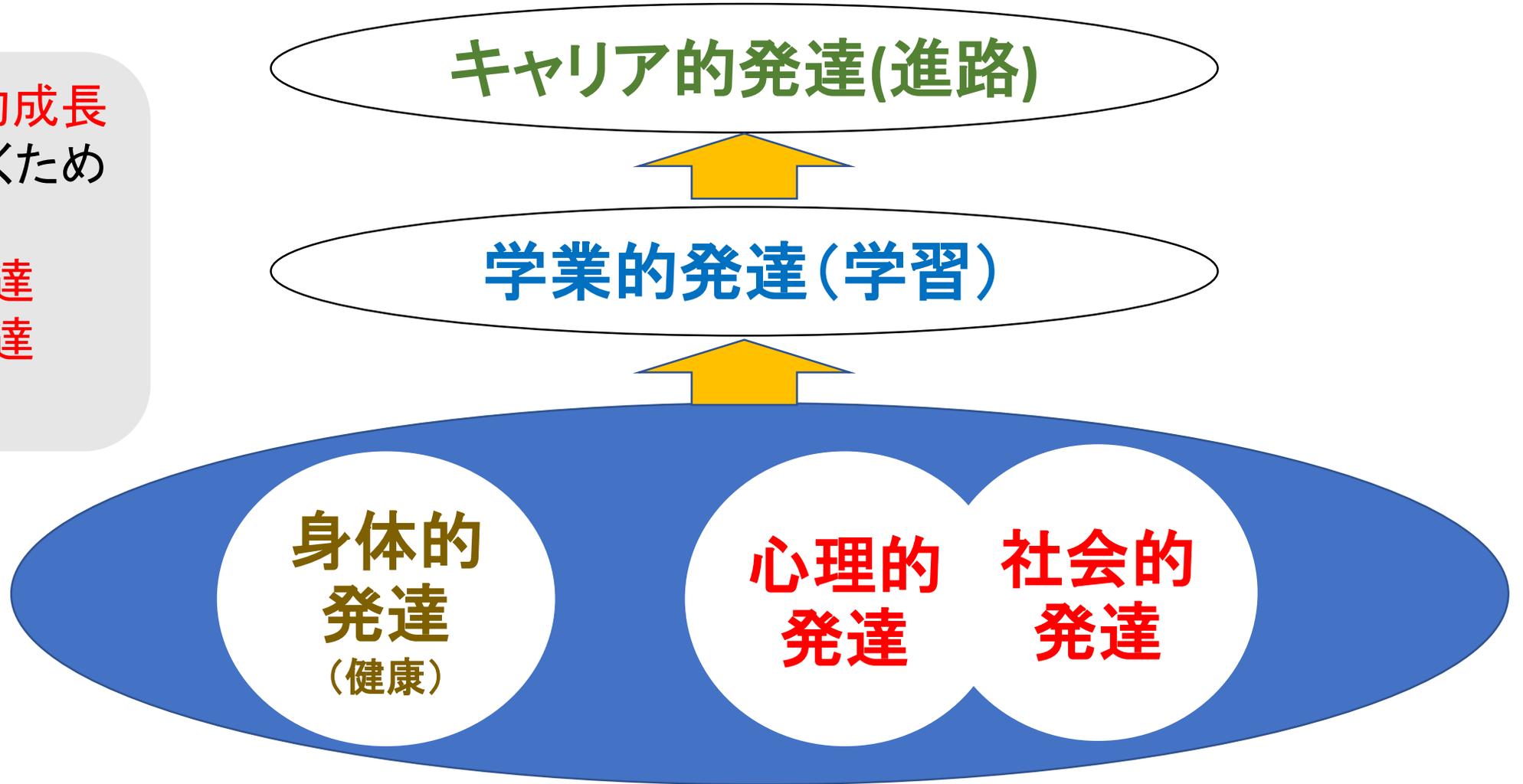
生徒を自立させる教育としての2次的生徒指導

1次的・2次的・3次的生徒指導



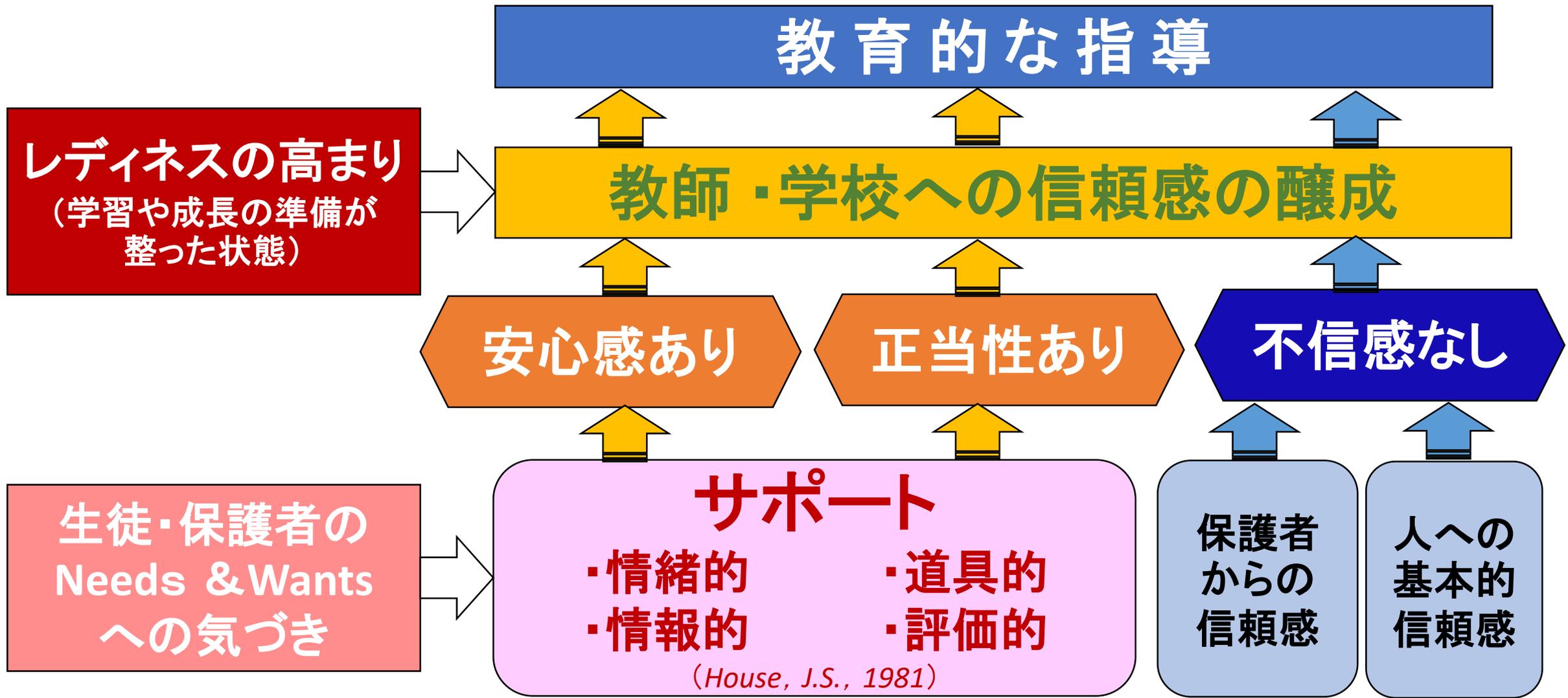
授業・HR・部活動等での教師の取組が「生徒指導」の基盤

生徒の**全人的成長**
を支援していくため
まずは
心理的発達
社会的発達
を促す



※BPSモデル(生物・心理・社会モデル)からの理解と援助を図っていく

「教育的な指導」が入るように、その前段階を整える



1. これからの生徒指導の取組
- 2. アセスメントの重要性**
3. アセスの基本
4. アセス個人表の読み方
5. アセス学級分布表の読み方
6. 支援策の考え方と作り方
7. 事例検討（理解の確認）
8. おわりに

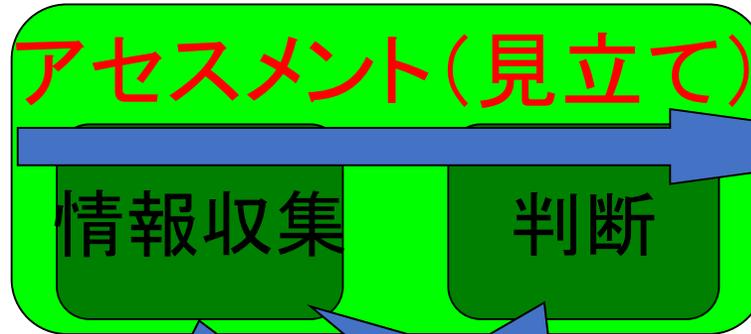
アセスメントは何故大事なのか？

- ・医者が診断を間違ったら取り返しの付かないことになる。
- ・教師も、アセスメントを間違ったら、その児童生徒の人生を狂わせることになる。

的確な支援のために

経験と勘

問題
(現状)



介入

学級崩壊
バーンアウト
精神疾患

認知的スキル
心理・教育・福祉等の
知識・理論

技法的スキル
教育相談の技法
特別支援等の技法

態度的スキル
生徒との交流

正確な見立てによる
的確な支援

アセスメントの土台としての情報収集

・実態把握 どうやって実態を把握する？

① 観察

日常の観察・作品等を含む

② 対話し聞く

日常の意図的会話・保護者面談

③ データ

アセス、B-SAFE、各種アンケート

集めた情報をもとに何をするのか

1. 実態の分析(生徒・学級・学校)

直感＋経験に頼りすぎず、**データ＋知識・BPSモデル**で分析

2. 対策の検討

生徒・保護者のNeeds,Wantsを踏まえ、**理論ベース**で検討

※理論的に正しいやり方は必ずより良い成果を生むはず

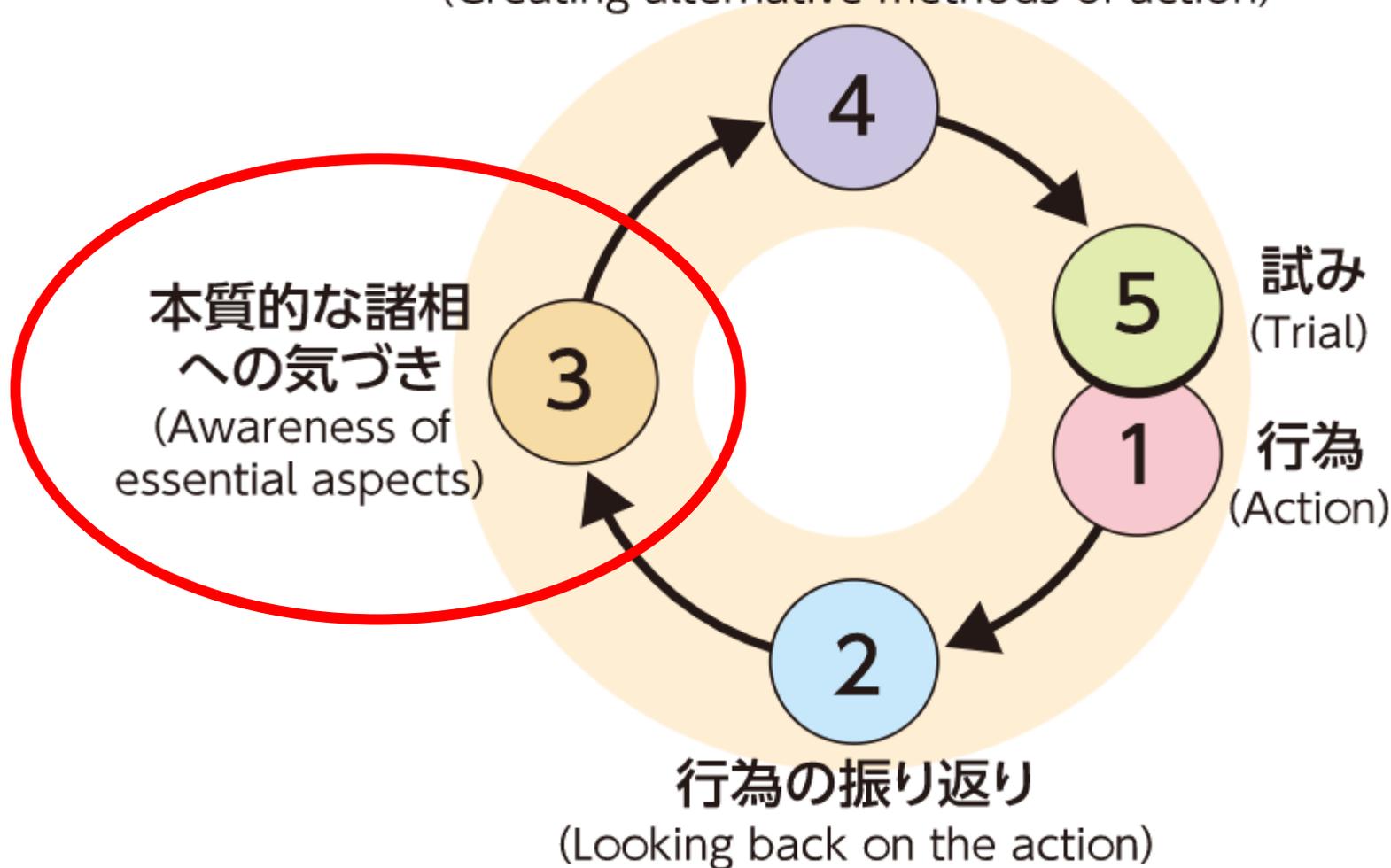
3. 分析と対策検討を組織で共有し、計画的に取り組む

目的・目標の達成に向け、役割分担して、計画的に取り組む

(※生徒一人ひとりを伸ばし、輝かせる教育の実現)

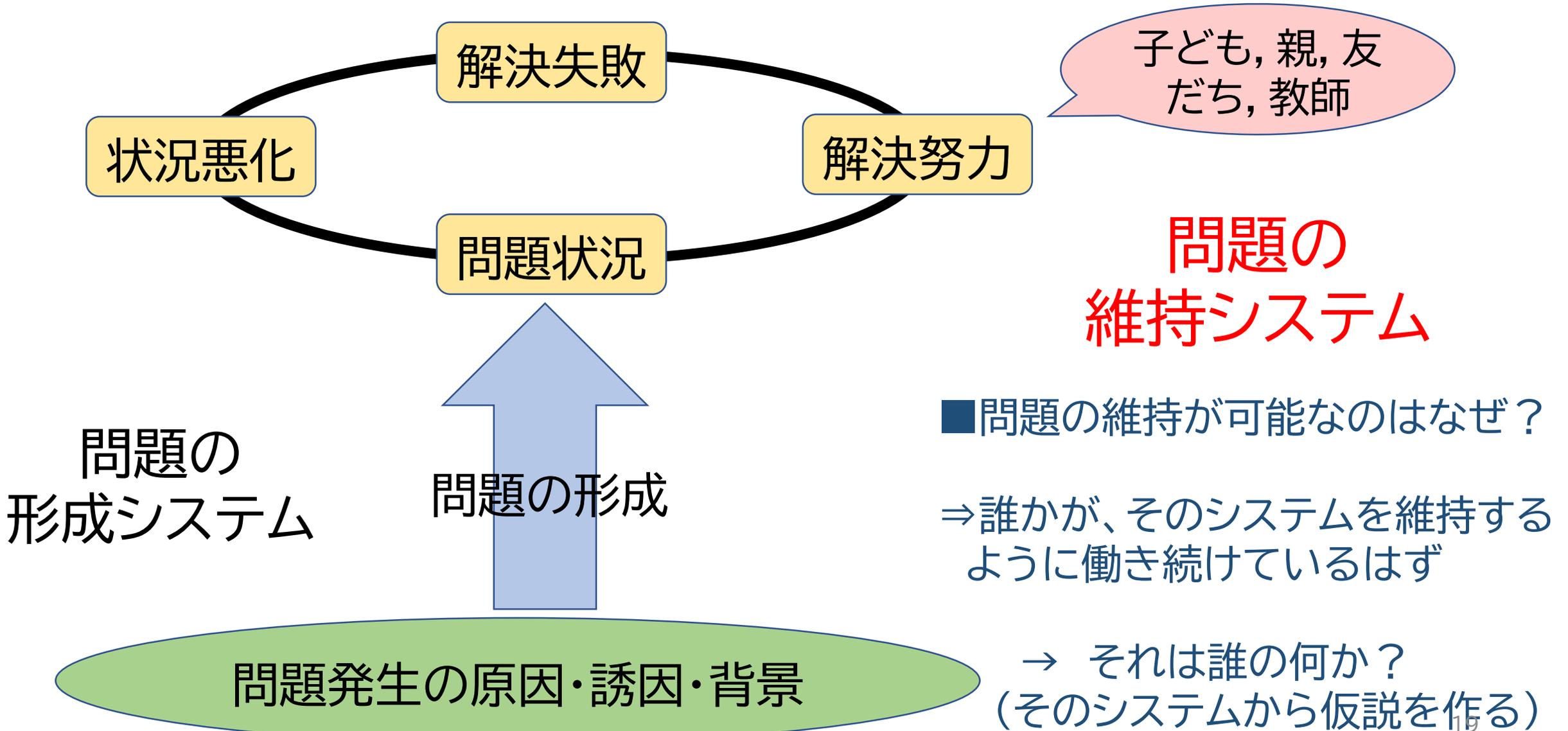
コルトハーフェンのALACTモデル

行為の選択肢の拡大
(Creating alternative methods of action)



フレット・コルトハーベン：教師教育学・学文社，2010，p.54.

アセスメントするときに頭に入れておきたいこと



うまくアセスメントする3つのコツ

- ① 表面的な分析で終わることなく、「本質的な諸相」を見つけ、対策に活かそう！
- ② 現状の分析を「経験と勘」だけに頼らず、「理論ベース」での分析を試みよう！
- ③ 子どもの実態と共に、「子どもの認知(気持ち)を把握」して、分析に活かそう！

本校では文科省の
「COCOLOプラン」で
提示されている
アセス・B-SAFEを
採用しています



アセスメントから支援策に繋げる取組

1)リアクティブな委員会における取組

- 情報の共有
- 理解の共有
- 目標と指導・援助方針の共有
- 指導・支援プランの作成
- 役割の分担(チーム編成)

2)その後の職員会議における取組

- ・情報の部分的共有
- ・理解の共有
- ・支援方針の共有
- ・全校的措置の検討
 - * 特別指導・支援等の対応策の提案
 - * 合理的配慮等の対応策の提案 など

1. これからの生徒指導の取組
2. アセスメントの重要性
3. アセスの基本
4. アセス個人表の読み方
5. アセス学級分布表の読み方
6. 支援策の考え方と作り方
7. 事例検討（理解の確認）
8. **おわりに**



一人ひとりを伸ばし、

輝かせる教育の実現

現在も脈打つ - 創立の心“心耕” -



◀ 本校は単位制の定時制高校です。

学校見学・説明会は随時受け付けております。
お気軽にご相談・お問合せください。

一人ひとりを伸ばし、
輝かせる教育の実現

現在も脈打つ - 創立の心“心耕” -

- ① 「魅力ある学校づくり」
- ② 日常の中に教師サポートを満たす
→ そこからのドミノ倒しへ
- ③ あらゆる場面で
※ 授業・HR・部活動・清掃 等々
- ④ 何か感じたら、“チーム学校”
報連相→アセスメント→支援策→対応

参考にしてください

- 「マルチレベルアプローチ だれもが行きたくなる学校づくり
～ 日本版包括的生徒指導の理論と実践」

栗原慎二 2017 ほんの森出版



- 『ブリーフセラピーを活かした学校カウンセリングの実際』

栗原慎二 2001 ほんの森出版

- 『アセス（学級全体と児童生徒個人のアセスメントソフト）
の使い方・活かし方』

栗原慎二・井上弥 編著 2010 ほんの森出版